

浜松河川国道事務所は浜松市とともに平成30年8月2日(木)、佐久間歴史と民話の郷会館において「天竜川勉強会(第5回) ～天竜川とともに生きる～」を開催し、約100名の方に参加していただきました。

勉強会は佐久間ダム完成満60年を機に平成28年度から開催し、今回5回目となります。

今回は佐久間地区の現状と課題や、佐久間ダムの建設が建設技術の発展にどのように貢献したかについて学びました。

会場内の様子



- 静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科 船戸准教授は、5年前から佐久間地区をはじめとする中山間地域で学生とともに集落に入って聞き取り調査に取り組んでおり、人口減少を統計上の人口減少だけで判断するのではなく、子供や孫世代も見据えて、佐久間に住み続けることの重要性について講演していただきました。また、船戸准教授より今回の講演に関する資料を提供いただきましたので、パネル展示を行いました。
- 電源開発(株) 中部支店長代理 星野様からは、10年かかると言われた佐久間ダム建設工事を、アメリカの建設機械を導入して大規模機械施工を行い、約3年半で工事を完成させ、その後の日本の建設技術の発展に貢献したきっかけとなったことについて講演していただきました。

岡部天竜区長による開会挨拶



静岡文化芸術大学
船戸准教授による講演



浜松の中山間地域における船戸
ゼミの活動を紹介したパネル展示



電源開発(株)
星野中部支店長代理による講演

